

(別紙)

成果の説明書

(氏名) 岡田知之	(学部) 経済学部
<p>1 重要事項</p> <p>最近は、コモンプール資源の適切な利用に関する研究を行っている。コモンプール資源とは、漁業資源のような共有資源として位置づけられる資源である。通常、経済取引の対象となる物は、所有者が確定しており、所有権の移転の対価として支払いを受けることにより取引は行われる。このような場合、市場での取引により、適切な物の利用が実現すると考えられている。</p> <p>コモンプール資源は、共有物と捉えられるため、「誰の物」かがはっきりしない。このように所有権があいまいな状況下で市場取引が行われると、価格に対して所有権を失うという負担（費用）が過少に見積もられ、その結果、このコモンプール資源の過剰利用が生じると言われている。このようなコモンプール資源の過剰利用の問題を回避する一つの方法として、あいまいなコモンプール資源の所有権を明確にするという手段が考えられる。具体的には、コモンプール資源の独占的な利用を誰かに認め、他の者にコモンプール資源の利用を認めないという方法がある。もしコモンプール資源の独占的な利用が認められれば、コモンプール資源の所有権が明確となる。そして、市場でコモンプール資源の取引が行われても、価格に対して所有権を失うという負担が過少に見積もられることはない。その結果、市場取引により、コモンプール資源の適正な利用が達成されるのである。</p> <p>しかし、コモンプール資源の独占的な利用が新たな問題を生じさせる可能性がある。この新たな問題に関して、理論的な観点から分析を行うという研究を最近を行っている。分析の結論として、所有権の不明確さを回避するためにコモンプール資源の独占的な利用を認めることは、確かに過剰利用の問題を改善することにつながるかもしれないが、市場構造によっては適切な利用を実現できず、逆にコモンプール資源の過少利用の問題が生じる場合がある、ということが得られた。今後の展望として、以上の点をまとめ論文の拡張を行うことを一つの可能性として考えている。</p>	
<p>2 その他の事項</p>	